

昭和55(1980)年3月31日

東京旭川会会報編集委員会

東京組川会 東京都新宿区西新宿7-4-3 升本ビル 東京美装興業株式会社内 TEL.(03)363-2721

主な記事

第三回東京旭川会総会報告

人と人とのつながりを

ふるさとの発展を (1 - 3)

郷土にかける橋 七十の手習い

《郷土ニュース》 開基九十周年を迎えて

同窓会だより

新谷市造氏 (1)

 $(4 \sim 5)$

(5)

平岡敏夫氏 (3)

失なわれた時を求めて

佐藤喜一氏 (6)

トウキョウの中のあさひがわ《味の店》

旭川ラーメン番外地・小料理「都」 (6~7)

《ふるさとに想う》

旭川を花いっぱいに

谷武雄氏 (7)

東京旭川会の総会は、秋色

(8)

事務局日誌他

《旭川風信》

会者一同、 (写真) 「カンパイ!」 高々と杯をあげ、

ふるさとの発

三頁に掲 会場を埋めた参

会場の同 杯を高々とあげて、会員の祝福と旭 老紳士ら約百七十人の 学窓を巣立った若者、 グランド・ くも世話役の幹部三十余氏が集合。 切の用意をととのえるうちに、 市の発展を願って乾杯した。 かなる山と水の故郷を偲びながら 各位が続々と詰めかけた。この年、 定刻午後六時より三時間前に早 月 九日、 ホテル・鶴の間を埋め、 パレスで盛大に幕をあけ 東京・九段のホテル 霜をいただく "旭川人" は

2 号

発行

躍

(±)

造

(D) (1) 谷





(郷)

線等) 後とも絶大なるご支援、 連携を密にして行く所存であり、 エクト(旭川空港、 展と会員各位がご健勝で一層のご活 諸事項の解決に対し、 経済基盤を更に強固にし、 の育成強化等の諸施策の推進を図り そうした中で本年は決意を新たに 地域問題への関心は、これまでにな 心からのご健闘をお祈り申しあげ わりますようお願い申しあげます。 ての東京旭川会の存在はまことに心 んで行く所存でございます。 い高まりを見せて来ておりますが、 建設、 発進められております大型プロー ご動する商工会議所」をモットーに たしましても今後ともより一層 いものがあり、 東京と故郷旭川を結ぶかけ橋とし の推進はもとより、 企業誘致の推進、 はるかにお祈り申しあげま 東京旭川会の健全なご発 「地方の時代」と言われ 高速道路、 積極的に取 又懸案の 地場産業 産業会館 新幹 ジ

本年は旭川市の開基九十年の

大きく飛躍を期して居ることと存じ

それぞれ新しい時代に向かって

又一九八〇年の幕開けの年で

東京旭川会の皆様方に

地元旭川経済界と ご協力を賜 今

準ミス・旭川(金坂真理子さん)が 所会頭代理水嶋隆氏が市を代表して ックに流すというキメの細かな演出。 とくに旭川からとり寄せた「旭川小 いっそうの花をそえた。 特別参加して、 加、ミス・旭川(森川典子さん) から片岡清吾助役、 この日、 のテープを、バック・ミュージ なつかしいね、 幹事がこの日のために、 とくにゲストとして旭川 和やかなパーティに 旭川小唄とは 旭川商工会議

るさと旭川のムードいっぱい。 詞を口ずさむ戦前派もいて、北のふ -」などと、思わず「師団通りの 一隅には、 春はめざめる旭川」の歌 即売場がしつら

> う売れたのカイ」「ナンボだい」な クラ四百グラム三千五百円、タラコ く書くと、新巻一尾二千五百円、 えられ、 ち売り切れた。 京とあって、タラコの類からたちま わい。歳末を目の前に、 どの国言葉もとび出し、即売場の前 いずれも市価の三割安とあって「も 同千五百円、日高昆布五百グラム千 れた海の幸が山積みにされた。細 旭川市の橋詰商店から仕 なつかしい旭豆などなど。 上野のアメ横のようなにぎ 物価高の東

雄同会副会長が議長となって「おか アナウンスして、 一回総会を開きます」と、 「では、只今より東京旭川会の第 総会は開幕。 司会者 谷武

> げさまで、 役員改選に入り、 ど」の編集担当、南栄二常任幹事か で平岡敏男会長以下全役員が再任さ 照)が行なわれ、 になってありがとうございました」 とどこおりなく終了した。 たい旨の挨拶があり、 会員各位から積極的にご投稿を願い ら創刊号発行の報告と第二号以下へ とにこやかに挨拶。ついで昭和五十 一年度事業報告と決算報告 東京旭川会の会報 このような盛大な集まり これまた満場一致 満場一致で承認。 第三回総会は 「な、かま (別掲参

面からのご寄付も賜わり厚く御礼申 配慮をいただきました。さらに各方 身の山本達也さんも、いろいろとご し上げます。では、ごゆるりと一 され、また当ホテルの専務で旭川出 たい。幹事の皆様が熱心に働いて下 がトップで挨拶に立ち「懇親会なの で気楽に酒をくみ交わしていただき 続いて懇親会に移った。平岡会長 リラックスした挨拶。

役が「坂東徹市長も出席するつもり れもよろしくとのことでした りましたので、お聞き下さい。なお 小柳勝人市議会議長からも、 ておりますので、参加できませんで があり、五百人のお客様をご招待 かけて建設した市立体育館の開館式 でおりましたが、 した。かわりまして、 セージをテープに吹き込んでまい ついで来賓として片岡旭川市収入 十三億円の工費を 市長からのメ くれぐ

況について、名投手スタルヒン選手 挨拶とともに、 坂東旭川市長の近

> についての説明があった。 ど、力強く発展するわが郷土、 と、熱心な努力を傾けていることな 都市としての立ち遅れをとり戻そう ぐ人口となったこと、市長を先頭に、 万人となり、北海道では札幌市に次 十七年には大型ジェット機が離着陸 港が拡張工事に入っており、 できること、旭川市の人口が三十五 顕彰像が建立されたこと 昭和五 旭川空 旭川



やかに正面ステージにミ

んから、ご寄付を続けてください」 んごも、ふるさとの酒しか飲みませ 製品などが飲み切れないほど。(「こ ッポロビール、十勝ワインから自社

(右)と準ミス・旭川であいさつ。

旨を訴えた。 川の発展のためご協力を願いたい」 らうれしく思いました。 読ませていただいて、文章の底に流 皆様がつくられた『な、かまど』 れている郷土を懐しむ心情に、心か 坂東市長はテープを通して「先日、 今後も、 を 旭

来賓各位の挨拶が続いた。 割れるような拍手を浴びた。 美しいカーネーションの花束を贈呈 会者一同、高くグラスをあげた。 故郷の発展を」と言葉をそえて、 有末精三顧問が乾杯の音頭をとり「 準ミス・旭川が谷副会長にそれぞれ ここで、ミス・旭川が平岡会長に 議会議長ら十二氏から、 太田剛北海道倶楽部理事長ら 小柳勝人 当日の盛 ついで、 酒 参

酒精、男山、ニッカウヰスキー、 てにっこり。 ウィスキーのグラス片手に、ゴショ カボチャのサービス。会員たちは、 会の方からも、うでたゴショイモと 会に寄せた祝電が披露され れられないものらしい。酒類も合同 いた食べ物は、いくつになっても忘 イモに特産のバターをたっぷりぬっ この日、 酒肴の寄付が山のよう。 どうも子供の頃いただ サ

長とナターシャさんをとり囲む光景 ルマガジン社発行)の即売も行なわ が父スタルヒン物語」 手の遺児、ナターシャさんの著「わ と、舞台裏を預かる某幹事の声) 毎日新聞社発行)と、スタルヒン選 平岡会長の近著「焰の時・灰の時」 サインを求める会員が、平岡会 (ベースボー

第 П 総会出席

河村尚之、河北芳造、笠井正司、 登、河端敏博、河端昭雄、河端紀幸 石知花衣、大城栄子、太田 剛、 衛、漆崎隆司、大塚一志、大野 泰男、市田勝一、上田進康、氏家一 井一瓏、伊藤一男、井上克己、石川 藤正人、赤川ろく子、阿部雅子、 西幸男、小潟ナターシャ、奥野寛一、 大矢 健、大井俊雄、大石武夫、 達ふさ子、荒井徹哉、 勲、菊地克郎、 折登昭三、押川 尾上一郎、表 県 小沢文男、小野尚武、 二郎、 菊地 有末精三、 秋島勲郎、 清、 拓、 大郎 落 大 板 安

文男、

俊、喜多



円でたちまち売れた。 のツボが五千円、一万円、

わいわいガヤガヤと歓を尽くすう

札という、ヘンな競りである。三つ

万五千

ーイ」とまっ先に手をあげた人に落

とは、主催者が価格を告げると「ハ 盛り上げた。 "一声オークション" りにし、・
戸川清氏製作、旭川窯の "

一声オーヘション』も開かれ、

興を

画伯の紹介、大雪山の熔岩を上ぐす ラスト近く、旭川出身の武田範芳

の閉会の言葉でパーティを締めくく

(再選役員は5頁に)

三唱、宍戸馨氏(教育出版社代表)

ョウアサヒカワカイ、バンザイ」を 表して越文子さんの音頭で「トウキ ちに、予定の時間が迫る。女性を代

生の一学期だから、五十六年もむか がトップ、他のクラスでは太田剛君、 谷先生がクラスで発表した。当時の 石丸啓二君であった。 しである。英語の試験の成績を、 学年は三学級。私のクラスでは私 旧制旭川中学の四年 笹

両君とちがって、あまり出来の良く ちでも時折思い出す。 ど嬉しかったものとみえて、こんに ない生徒であった私は、それがよほ になっている。旭中出身の笹谷先生 の持主、石丸君は、北大を出て医者 たる英語教師であった。太田、石丸 太田君は、御存知のとおりの経歴 東京外語を出た新鋭、さっそう

スフォード大学を出た英人の教師も を第一外国語とする文科甲類に入っ は大きかった。弘前高校では、 高校の入試でも、英語のウェイト 英語の時間は多かった。オック さらに、そのあと東大経済学 英語

> という本を読まされた。 部の入試は、英文和訳だけであった。 済学者の「宗教と資本主義の発達」 にだけは進んで出た。イギリスの経 げていたが、矢内原忠雄教授のゼミ 大学時代は、 学生新聞に血道をあ

派された。ここでも英語を読んだり、 太平洋戦争が始まると、香港に特

それに目を通していた。 う」などといわれることがある。と 自宅では七、 しゃべれないのだから……と、応答 ている日本語だってこの程度にしか から「お前は、英語はペラペラだろ んでもございません、七十年間使っ というような次第で、心ない友人 八種類の新聞をとり

話したり、 習ったりする機会が多

会長

平

出

敏

と中年のイギリス人にほめられた。 上げるまで通ったのはお前だけだ、 ツの外国語学校に通った。日本人は -五才。二年いてその間、 ロンドン支局長になったときば 一冊の教科書を仕 ベルリッ

することにしている。だが、 を携帯した。第一年目はともかく、 旅行の際もトランジスター・ラジオ 語とフランス語のレッスンを聞いた。 前がぴったり一致しているのである。 しながら、この点になると本音と建 一年間続いた。そのときは熱心で、 私は毎日ラジオでロシア 恥ずか

> カ月目に入った。今さら基礎英語な 礎英語と英会話を聞き始めた。朝の しかし、毎日新聞の社長になって、 われそうであるが、 どもの好きにもほどがある、とわら 六時から七時までである。そして五 で、落第したような気がしたものだ。 一年目はまたABCからはじめるの 十一月から、こんどはラジオの基 ところが、何かのきっかけで昨年 た。もとのもくあみである。 間の関係でレッスンと切れてしま 聞いていてすこ

手習いは、頭の軽い体操から一歩も ちろん試験もないのだから、七十の であったが、予習も復習もせず、 ロシア語・フランス語の場合もそう の癖がつくような気がする。ただし、 るが、年をとると、三日坊主とは逆 昔から三日坊主ということばがあ (毎日新聞社社長)

> 山本幸男、山本達也、 康、山口二郎、山田智子、 猛、師橋 孝、八木祐四郎、矢野

山田玲子、

山田美千代、 矢木茂昭、

吉田敏明、米道豊蔵、米山孝

沢隆雄、橋本直久、芳賀照雄、長谷 藤貞雄、宍戸 馨、宍戸富一、柴垣 原利治、馬渕憲三、 川和延、松浦常雄、 宗光、原 羽登志子、新田義幸、野口保元、野 中村信夫、乳井啓子、丹羽敏明、 富岡勇吉、中井喜代之、中野虎雄 夫、土屋嘉雄、恒川麗子、 武雄、武田範芳、武田妙子、谷 本卓郎、田崎公司、田村昌士、谷 武田陽子、竹原茂雄、辰田 建雄、世良 保、関谷赳夫、高橋国 木妙子、清光照夫、関口和子、関口 木吉之、鈴木与之助、須藤正一、鈴 菅沼啓介、杉松秀樹、鈴木忠雄、 謙、重野孝三、塩谷キン、石田喜子、 工藤ヤエ子、工藤キミヱ、桑本平八、 村井与吉、室谷文治、毛利恒夫、森 造酒多津男、三井 孝雄、牧野 彰、三浦清史、三浦勤 藤井繁、 一、布施裕輔、深井弥一、福居秀一、 栄二、・ 功、古瀬由子、 花輪元治、馬場量定、坂東 福田 藤田大三、 公朗、平岡敏男、広瀬芳 規、三繩妙子、三浦正平、 明、高島文夫、竹川哲雄 佐藤正彦、沢登博美、 宮下博夫、 潔、 佐々木喜三郎、 一、堀江秀明、 勲、御手洗正夫、 松原左一、 松浦美喜雄、 藤林美樹子、 豊島邦夫、 守、 松

:幾星霜の年輪のなかに開拓期の言 ひとくちに九十年といっても、

開 人間性あふれる個性豊かな街づく 基九 十 周年を迎えて

の節目を迎える。 生して以来、 りを進めている旭川市は、 一村が明治二十三年九月二十日に誕 今年九十才という一 上川郡旭

市営球場

北海道新聞

神楽岡公園

宮前球場の

宮前球場

1



つりも今年で第21回をむかえ2月8日から11日まで盛大に行わ 老若男女すべての人たちが戸外で大いに楽しむときだ。市民総ぐるみで創意と工夫をこらして作られ た雪像、氷像の数々は北国の生活に楽しさを与え、 春の間近いことを知らせてくれる。 写真は平和通買物公 園の会場風景。

知的産業都市をめざして

うした先人の血と汗の結晶があった 耐えてきた歴史の重みは大きく、そ 語を絶する苦難があり、その風雪に

昭三十 (昭三十 (昭二十五年) (昭十五年) 開く 業開始 年 年) 神居村、 国策パルプ旭川工場 市内電車廃止 江丹別村合併

記 念 事 業

旭川空港)

旭山動物園

峡羽衣の

年 市では、 売間からも協賛事業を受付け 行事を企画、 じて行なう事業をまとめる 庁内の各部などから記念 立案してもらう

を始めようとしている。 業都市を目指していま大いなる飛躍 業に支えられる都市としての知的 としての研究学園都市③創意ある産 ての自然都市②北方文化の中心都市 たって、①自然と融和する都市とし

昭四十八年

国立旭川

医大開学

つを柱とした。たとえば、 連帯による希望都市づくり」

「ふるさ ,

の 三

昭四十七年 昭四十六年 昭四十三 昭四十一 昭三十八年

全国初の買物公園オ

③総合開発計画にあわせて「信頼と

十年」②将来の開基百年への展望

年 年

神楽町合併 旭川空港開港 東旭川町合併

年の歴史をふりかえる「ふるさと九

る推進方針を決めたもので、①九十

東鷹栖町合併

八十年代における旭川の街づくり ばこその今日の旭川である

昭三

一十六年

永山

町合 併

ことにしている

そこで記念事業、

行事の基調とな

そういった歴史の基盤のうえに

旭 Ш 市 0) 沿 革

明二十三年) 永山の三村をおく 八九〇年 上川 郡に 旭川 神居

明三十四年) 明三十一年) 上川線空知太 川間鉄道開通営業開始 第七師団司令部を札 (滝川

明三十五年) 幌より旭川へ移す 氷点下四十 度を記

(大十一年) 二人 九三三 市制施行 (六 二 、 四六

(昭四年) 市内電車線開通

北海道開発大博覧会

昭和二十年 四十年 五十四年 五十年 四十五 三十五 三十年 二十五年 1000 六八四人 九六九人 五九三人 二〇六人 二三八人 六二一人 六二五人 五一三人

日

口

0

推

移

五十四年十月



式典に参加願う。 交流を図るため公式訪問団を招待し、 リノイ州ブルーミントン市との親善 でとり行なうが、 開基九十周年式典は市民文化会館 姉妹都市の米国

るため九月中旬に記念展を開く。 ②「市民体育の日」を制定し、 ①中原悌二郎賞が一〇周年を迎 市 ż

民こぞってのスポーツを楽しむ 〈事業〉

ドを持ち、総工費約一八億円のデラ 想としては二万四千人収容のスタン ックス球場で三~四年計画で完成予 ①硬式野球場の建設を行なう。 構

道有林を開放して青少年に林野愛護 期計画で推進するもので、国有林 なう。これは開基百年にむけての長 ②「二十一世紀の森」の建設を行



記念式典等に大挙

参

加を

〈쑻典〉

定で、

今後この基調に沿ったものを

う長期計画事業などを取り上げる予 開基百年に向けては十年計画で行な と九十年」では写真による今昔展、

記念事業・行事とするよう具体的

プランを練る。

思想を普及させる一方、 の場を提供するのがねらい。 も自然と親しめるレクリエーション 長の伝記を発行する。 故前野与三吉、 イター設備設置。 ⑥札響のグリー ⑤名誉市民伝の発行。

一般市民に

年にかけての作)を購入する。 円でロダンの彫刻「ジャン・デール ④軟式野球、ソフトボール場のナ)裸体習作」(一八八六~一八八九 ③ロダンの彫刻を購入。約二千万

名誉市民の

同坂東幸太郎両元市 ン・コンサ ト開

十 世紀へ の街づくり

同窓会だより

となる旭川市の新総合開発計画素案 がまとまった。 六十二年度までの街づくりの指標 ①人口は四十万八千人と推定 主な事項は次のとお

女

東京支部

緑陰会(北都高女、

旭川市立高

③下水道普及率 五十七%を目標

生は、現在、

大森家政学院を経営し

時から午後二時迄、

池袋駅西口公

旭橋等のおなじみの席に各期毎に集

会いたしました。

旭川ラーメンの御土産を片手に、

散

総会兼クラス会となった所も

ておられます。そこを緑陰会東京支

躍なさった鈴木秀子(旧姓溝口)先

卒業生であり、教師としてもご活

②総事業費は一兆七千億円の見積

⑤外国語大学、 ④二十一世紀の森造成 芸術大学の誘致

8美術館の設置 ⑦北方水族館の新設 ⑥市民交響楽団の育成

> 終戦から十年程経過した昭和三十一 部として同窓会を発足しましたのは

で同窓会を開催いたしております。

ち

いたしております。

(連絡先

頃のことでした。以後、

毎年東京

緑陰会の皆様のご参集を心からお待

気合々とした楽しい会ですので、

会費四千五百円、年間会費五百円、 園東方会館にて開催する予定です。



会員と旭川 市

街づくり』を基調に交流会

商工会議所との街づくりを基調とし た経済交流会を開催し、 東京旭川会の会員有志と旭川 盛会裡に終 市

長、 市センターで、 勝田顧問、 谷副会長、 一月十八日、 御手洗、八木、桑本、 当会からは、平岡会 宍戸副会長、太田 千代田区平河町の都 落

吉田千里 >常任幹事=安藤正人、 合各幹事が出席した。

大城栄子、

茂雄▽事務局長=桑本平八

義徳、

村井与吉、

村上勇、

村本定二、

野口保元、林輝一、 夫、勝田正之、棚橋重平、

広瀬芳一、前田

西岡政人、

所長、同次長が出席した。 会議所事務局長、旭川市東京事務 長、秘書課長、 谷商工会議所会頭をはじめ市商工 方、市側からは、 企業立地係長、商工 坂東市 長 新 部

りの方向(総合開発計画)、 挨拶のあったあと、旭川市の街づく 冒頭、市長、会頭、旭川会会長の 経済動

> 三井勲、吉田敏明、 郁生、土門勇、花輪元治、 桑本平八、須藤正一、関 西幸男、大矢健、折登達男、 村昌士、原公朗、 市東京事務所>監事=黒崎弘、 一、金安勝雄、 矢木茂昭▽幹事=伊藤一男、 御手洗正夫、南栄二、 佐藤正彦、関口和子、田 河端敏博、 堀川和延 吉田三郎、 三浦清史 八木祐四 晁、玉田 加藤辰雄 奥野寛 松原利 旭川 大

雄、北山正一、小坂佐久馬、

、柴山敏 小沢文

未精三、

梅原音二、太田剛、

宍戸馨▽顧問=縣二郎、

秋田茂、

有

▽会長=平岡敏男▽副会長=谷武雄

された役員

(3頁と)続く

店への昇格、 明の後、意見交換を行なっ 会した。 とを誓い、 創設、芸術大学の設置、日銀旭川支 向について、 今後さらに交流会議を推進するこ その内容は、全国初の看護学校 わかれを惜しみつつ、 大雪山の総合的活用等 商工部長からの概要説 た。 散

大森家政学院緑陰会東京支部 (七六一)三六九二当番昭和七年卒生 電

旭商同窓会東京支部

時より、 華やかになりました。 性の参加者が十数名となり、 いました。百余名の出席者の内、女 の総会を、 去る二月十三日(水曜日)午後六 会場の配置には、 第三十回旭商同窓東京支部 市ヶ谷会館において行な 大雪山、 、石狩川、 一段と

表されて太田先生がいつも変わらぬ 谷会長の挨拶に始まり、 恩師を代

同心配致しておりました。 て持ち帰られたかしら、と当番期 気カーペットが当たった方はどうし なのも忘れて大さわぎで、特等の電 沢山の賞品に抽せん嬢も大忙がし。 日の御楽しみ、くじ引、が始まりま 若々しい御声で挨拶に立たれました した。道産品の鮭、たらこを始め、 参加者一同も、帰りの持物が大変 なごやかに会が進み、 名残りつきないまま定刻八時に、 いよいよ本

って居ります。 のブドウ狩りへ御誘いする予定にな 秋には例年の通り、 楽しみに御待ち下さ 一一四四 家族共々牛久 武田 記

枝村)、 恵美子(同山本)、玉置美登利 木秀子(同溝口)、湯浅しげの、 盛会でした。出席された先生は、 にて開催、出席者は先生方六名、 者にそれぞれお送りいたしました。 千葉)様たちでした。名簿も四度目 業生三十七名、 の印刷をして、 昨年は四月一 本年は四月二十日(日曜)午前十 浦川美枝、 一十二日、 欠席の先生方と希望 合計四十三名と大変 山名ハツノ 市ヶ谷会館 (同 同 卒 林 鈴

失われた時を求めて



佐 藤 喜

札幌とすでに刊行済みである。 皮切りに、帯広、旭川、釧路、 は約八十都市の写真帳が出来上がっ にタッチした一人であるが、全国で 川写真集」(国書刊行会発行)の編纂 た勘定になる。北海道では函館市を 昨年、私は「眼でみるふるさと旭

けに力を注いだ。 たが、肝心の写真蒐集に困難が伴な 師団、四、近文コタンを中軸に据え は旭川発祥の特質を示すものは、 って、四つの柱を建ててみた。それ 田兵村、二、上川離宮地、三、 私は「旭川編」を担当するにあた なかばノイローゼ気味で種目別 古い写真はいっこうに集まらな

供をみたことであった。明治の写真 最初のデパートに匹敵する後藤商店 の店先、上川倉庫の上棟式などの提 場)の街並、一条二丁目左一の旭川 四条十四、 林写真館撮影で、武林無想庵の実家 の旭川駅前の風景(これは札幌の武 嬉しかったのは、 一同を写した屋内もの 五丁目(今のしあわせ広 明治三十二年頃 距離を毎日往復したものだ

らく写真館での固くなっての映像 りした記念撮影に限られていたこと 写真といえば、自家中心のこじんま が乏しいことである。つまり当時の が圧倒的で、家の前景を写したもの

ものがある筈だ、といった声も聞か めざるを得なかった。 れたが、今後に待つ他なく、 来上がりが杜撰だ、もっと珍らしい のものは判断に苦しんだものだ。出 席や演芸館の古い写真も大正期以前 くまでには遅すぎた失敗もある。寄 ズというのも関西煙草の名前と気付 看板の文字、ヒーローとかサンライ 後に師団通りとなる通りに面した

高田馬場駅からシチズン時十工場の 夢の一部はたしかに、東京の山の手、 っている、だから少年時代の遊びや に古くなった。そういう私も、小学 たの五年、計七年間は東京生活を送 私は六十余年旭川の町に住んでい 宮下通り在住者としては二番目 五年の二年間と、昭和ひとけ

> を捕ることは平気なのに、あの青い だろうか。私はキリギリスやバッタ 士山が見えたものだ。子供心に恐ろ かげはさらにない。晴れた日には富 野球場と化した戸山ヶ原は団地アパ 垣根はどうなったろう。日曜ごとに 消えてしまつている、あのスモモの の近くのザンドレット恒子夫人邸も 山武四郎将軍邸もあとかたなく、そ 塚町上戸塚近辺は全く一変してしま 逍遙することにしているが、 しくみえたハタオリ虫は、今もいる ることができた。家の前に在った永 ハタオリ虫は毛嫌いした。 に苦労する。僅かに、稲荷神社のほ い、どの辺りがかつての家か探すの こらを見出だすことによつて判定す トの密集地帯に変じて、昔のおも 何年かに一度は昔の住家の辺りを

とが記憶にある。 並んだのは、いま想うと大隈大講堂 の前あたりだった。 駅のすぐ下に在った)の生徒として 校はどこに分散したかわからない。 私ども高田馬場小学校(今はこの学 が水曜日だったことを覚えている。 大隈重信候爵の国葬に参列したの 大正十一年一月十七日、この日 道の悪かったこ

私の男子クラスは、 党を組んで、戸山ヶ原をのりこえて ドロボウ学級だった。夜になると徒 どうかかわったかは知るよしもない 免かれた。それが、その後の運命に 戻った。だから翌年の関東大震災は 死に、父の葬式を済ませると転校手 続きをして、旭川のふるさとに舞い そして、その年七月に病身の父が あの頃の小学校の、少なくとも 掻っ払い専門の



《味の店》

旭川ラーメン番外地

中央区八重洲大地下街

少し行くと、故郷旭川を偲ばせる懐 かしい香りが鼻をつき、ふと足を止 めさせる。「旭川ラーメン」から流 東京駅八重洲北口を出て地下街を 苦心している。 電話(二七四)五〇〇五

軽に入ることができる。 店内はローカル色豊かで、 れてくるものである。 ても特に気取った店構えではなく、 東京の玄関口の商店街の中にあっ 誰でも気

は極めて研究熱心。 狂い』というだけあって、味作りに んは旭商卆、三十四才と若いながら 創業十余年で、主人の亀井邦興さ その道では、自称 "ラーメン気

年に数回北海道へ帰り、南は函館 心に、コーン、バターなどお好みの 探索に出かけているそうだ。 づけるのが念願で、暇を見つけては ら遠くは稚内、知床方面にまで味の メニューは、醬油、味噌、 旭川の「蜂屋」の味に一歩でも近 塩を中

リとした味を出すため、 八重洲北口 洲地下街 八重 地下鉄東面線 重洲大地下

と程遠いものになるため、わざわざ 他店にはない極秘のダシを用いてい 一プ作りには特に念を入れ、 麵も東京製のものでは旭川の味

くるお客さんで、店の外にまで長い 千葉県内の業者に特注するなどして ラーメンに近い味を慕って集まって 昼食時には、この本格的な旭川の

ら、 日を懐かしく想い出させてくれる愛 人には味噌味が一番受けている由。 決まっていたが、最近は、特に若い ラーメンといえば醬油味と相場 旭川の厳寒の中、鼻をすすりなが スープの最後の一滴まで飲んだ

列ができる有様。

ドに、

木綿の黒靴下、ゴム長靴で、

コいいなあ、

友達に分配した。誰も密告もしなか ったし、共犯意識で縛られていたも み、翌日その収獲をクラスで自慢し、

新宿に出向いて、絵葉書、絵本を盗

私は、 のか。北海道から一年前に宝入した だ喰いを眺めていた。あの頃の同級 喰いやそばやでの注文、 ただ驚きの眼で、社 焼トリのた の買い

されたい。(旭川郷土博物館名誉館長) 生にそのご一人も会ったこともない し、消息を聞いたこともない。とん だ「旭川風信」になったことを寛恕

旭川を花いっ ふるさと、に想う 副会長 ぱ 4 谷 に 武

雄

然の素晴らしさを痛切に感じる。 境に、心から感謝している一人であ ある。そこで育った私は、健康にも る。「コンクリート砂漠」と称せら た。私を育ててくれた旭川の自然環 さな村で生まれ、二十数年間を過し れる東京に住んでいると、旭川の自 特に寒さに対する皮膚の強 何といっても酷寒の地で

私は、旭川近郊の西神楽という小

さは自信がある。軍隊時代にも、 海道地区から入隊した兵は、零下十 も養なわれたと思っている。 の中で、耐寒力のみならず、 数度の"しばれ"など何でもなかっ だ。私は、この旭川特有の"しばれ した兵は、皮膚が白く変色したもの た。それに比べて関東地区から入隊 北

噴煙たなびく十勝岳、これは、 石狩川堤防から遠望する大雪山と 旭川

あのころの想い出

雪に濡

昭和十年頃、

私は北都高女一年生

なります。

る恰好は、

大城

栄子

ない。あのパリのように 神居古潭、 旭川になって欲しい。 らしいふるさとだろうか。 感謝の気持ちでいっぱいである。 の流れ等々、このような大地の自然 の砂漠都市東京のまねをしてはいけ するだろう。しかし、コンクリート な銘酒を出した「清い水」、 環境が、私を育ててくれたことに、 の自然の象徴である。上川の沃野 酒都とまでいわれ、。男山』のよう 旭川の木「ななかまど」、春夏の 八十年代に入り、 「うまい空気」、なんと素晴 春光台、 旭川は益々発展 旭山公園、 「花の都」 緑と 忠別



でした。翌年からズボンになって、 熱い豚汁を丼一杯喰べるのが楽しみ ラシュートのように拡って滑ってく た手袋を乾すために入った山小屋で しかしその頃は無我無中で、 今の子供達の滑る姿をみて、 今思い出しても恥かしく 凍ったスカートが丁度パ 凍っ カッ 白い雪のほおかむりの情景、 赤い珊瑚のような実。その赤い実に るのではなかろうか も言えない。この「ななかまど」の 木が街の並木となり、森となったら 丁度パリのマロニエの木と同じにな 秋の紅葉、落葉後冬にかけての

市電で終点の一丁目で降り、後は徒 の沢山で週に半日のスキーでした。 でした。冬の間の体操の授業は、伊

入学祝いに祖父が買ってくれ

たスキーをかついでゆきました。

ホッとしたものです。

その姿は制服のままの箱ひだスカ

すべき占である。 ック「茶茶」の姉妹店で、東京旭川 東高八期の亀井佳子さん経営のスナ 声をかけては、安心して帰宅する頼 同じ地下街南口にある、 はママの顔をみて、「元気かい」と が開店以来のお客様で、

一寸寄っ

頂だいた旭川のラーメンの味、その の冬を偲んでの一夜をいかがでしょ 東旭川市長から先の総会時お土産に 会の平岡会長の遠縁にも当たる。坂 味を何時でも味わえる東京で唯一の うか。 の網で魚を焼く匂いをかいで、 笑ましい姿も見受けます。 いろりに昔を思い出し、炭火の上

店である。 年中無休 営業時間 午前九時~午後九時

小料理

囲気で親しまれている店です。 まさ、また狭いながらも家庭的な雰 のママの人柄の良さと家庭料理のデ 開店以来三十余年、北都高女卒業 電話 (三八一) 〇七七八 中野区中野三—三五—八

冬には旭川の鳥「キレンジャク」が その実をついばみに来る、 が並木として、仲通りまで植えられ、 下さいと願いたい。「ななかまど」 の皆さんで、役人に管理を託すこと ロニエに対する愛情が感じられる。 とんどない。そこにはパリ市民のマ 光景も見られます。また、ほとんど 皆で一こん交しながらおさらいする 必ず立ち寄り、習ったばかりの歌を 旭川の木 自分達の木としていたわって 傷ついたりしているものはほ 「ななかまど」も、市民 そんな街

金曜日には民謡教室帰りの一団が 新宿→ 中央線 野駅 中 ←立川 三菱信託銀行 バス乗り場 坂 都→ 丸井デパート

る。空気と水がきれいで、寒いこと るさと」を持つ私達は幸せである。 公園など、全国に先がけて出来た歩 旭川市の方々と共に、『花の旭川 行者天国だ。こんな素晴らしい「ふ った所から生まれた、旭川の味の一 に思う。あの旭川ラーメンもそうい が加わってその味を作っているよう オリジナルの町だ。平和通りの買物 つだろうか。 ふるさと旭川は、 青年の街であり

なんと ふるさと旭川には、

百年もたっているであろうが、枯れ

独特の味があ

を期待したい。

(千代田企業㈱社長)

と思います。

パリのマロニエの並木は、もう何

10月3日金子龙 P.M.6: (担当・田村昌士)

第3回総会の折 上野のアメ横のようなにぎわいであった。

ぞって参加を

代田区永田町2-13-8 Tel.581

会員募 集 ☆当会も発足以来、 会員皆様のご協力により 員が増加し、五百名を越すまでになりました。旭川に りのある方の入会を心よりお待ち致します。

四年度分会費未納の方、ご送金はお早めに! お申込み下さい。 (年会費1,000

ついてのご連絡は、当事務局まで

士 物 即売会につい 産

7

郷

を研究し、格安で新鮮な郷土の香りを て頂いたことを、 との要望が寄せられましたので、鮭、 待下さい。 ました。今年の総会ではさらに出品物 様で大変好評を博し、完売させて頂き 筋子等を主体に取扱いました。おかげ 紀届けする心算でおりますので、御期 た。新鮮かつ美味な品々を取り揃え なお、即売に際しましては、橋詰商 致しました。前回、干物より生物を (旭川市) の多大な御支援を頂きま 昨年に続いて二回目の即売会を開 誌上をお借りして感

務局日誌

元代表との懇談会出席。

(その他、

一月十九日会長他七名、

任幹事多数の来局がありました。)

ヶ谷会館)▽昭和五十五年一月二十九 日第五回常任幹事会(於事務局)▽ 同十一月 並懇親会(ホテルグランドパレス)▽ ▽同九月二十八日第四回常任幹事会 同九月七日第二回幹事会(於事務局 第三回常任幹事会開催(於事務局)▽ 旭川市東京事務所) >同八月二十八日 席▽同五月三十日常任幹事会開催(於 議会総会に御手洗・松原両常任幹事出 同四月二十日北海道ふるさと会連絡協 月十二日第一回幹事会(於事務局)▽ (於事務局)▽同十月四日第三回幹事会 於事務局) >同十月九日第三回総会 (昭和五十四年度) >昭和五十四年四 一十九日第四回幹事会(於市

昭和五 収支決算報告

収入の部 昭和五十四年三月三十一日現在

ふるさとを偲ぶ回数が多くなり嬉しい ☆゛なつかしき、テレビに映る、旭川

合計 雑収入 寄付金 名簿売上代金 五十三年度総会会費六二六、 五十三年度年会費 二八九、 二九五、 四四二円 000円 五〇〇円 000円 九六四円 九七八円 000E

支出の部

繰越金 支出計 雑費 手数料 交際費 事務費 印刷費 通信費 会議費 五十三年度総会経費六六〇、 〇五九、 九〇、 六四七円 七九五円 七五五円 000円 四四二円 000円 二八〇円 000H 九〇〇円 七四〇円 | 10円

以上の会計事項について監査の結果、 適法なものと認めます 常任幹事(会計担当) 東京旭川会会長 八木 平岡 祐四郎 敏男

昭和五十四年三月三十一日

編集後記

茂弘 雄 田村

旭川市長他 常 地 竜頭蛇尾に終らぬよう編集者一同張切 ☆年二回の発行を予定しておりますが

してます。 発展のためにも、皆様の投稿をお待ち っております。会員相互の親睦と会の どしどし投稿して下さい

どこか御存知の方は御紹介願いまーす けではそろそろ種切れしそうなので、 さて旭川味の店めぐりも高級フランス ようにスーパーで買えないかな……。 限りです(関口) メンにうるさい愚息日く、 ☆総会お土産のふじの華旭川生ラーメ 、味が良いとなかなかの好評。ラー 理からラーメンまで、編集子の足だ が熊五郎の

なり人間関係のルートを開き明るい楽 合いが失われては殺風景な社会となる 住み良い社会にはならない。心の通い 間に便利さをもたらすが人と人との心 となり人間性を見失う傾向が強くなっ しい社会につながることを確信します ている今日、高度な社会の仕組みは人 にとつてもさわやかな一日の始りのコ よう」の一言が自分にとつても亦相手 ちになっている。朝顔を合わせ「おは 傾向として日常のあいさつが失われが ☆改めて云うことではないが、 くら便利な世の中になっても快適な あいさつ」がお互いの交流の糸口と ふれあ合い、連帯感や交流がないと の巨大化社会の中で次第に部分品的 ルになるものと思う。現代の企業組

☆総会の折、平岡会長のご厚意で、 だきました。 カメラマンをさしむけられ、 くに毎日新聞社写真部からベテランの かまど」のため写真撮影をしていた 伊藤 会報「な ٢

スを回読しながら編集会議はいつも懐 ☆郷土の先輩の原稿や旭川市のニュー

人の新 ☆郷土へ帰った人、郷土から出て来た 古談に花を咲かせております。 ニュースをお待ちしてます